

2023

8

岡山県立倉敷工業高等学校 資格検定推進室

資格検定ニュース

2023年8月 | 第13号

協働による創造的業務推進

・協働による個人限界突破

個人の能力を日々高めていくことは、業務推進上の不可欠な要素です。しかし、個人で業務を進めていく上での業務限界点は、個人の力の限界点です。一方で、有効にグループワークを推進できれば業務の限界点は個人の能力の限界点を超えることが可能です。

・業務の効率

グループで意思疎通を図りながら業務を遂行するためには、お互いに確認のための時間が必要となります。個人で行えば、自分の思う通りに進めることも可能です。意見のすり合わせや妥協点を見つけ出したり、譲歩する必要もありません。しかし、残った結果が、第三者から成果として認められるかどうかは別です。この点で、グループワークはより第三者からの評価を得やすいかもしれません。

・新たな視点の獲得

個人業務は、その個人が持つ思考バイアスがかかります。個人の見たいものしか見ず、得たい結果しか得ようとしません。一方でグループワークは、個々のメンバーの視点を超える発想が生まれる可能性があります。最初は受け入れがたいと感じる事象に対して、新たな視点を見出す契機を見出すかもしれません。

・競争心と自尊心

誰でも他者から認められれば、肯定感が高まります。遮られたり、無視されたり、取り上げてもらえなかったりすれば自尊心は傷つけられます。色々な意見を述べたり、方向性を示したりしても心理的安全性が保証されている職場であれば、仕事に真っ向から取り組もうと思えます。

・ベクトルは最初から定まらない

納得感のないままで、皆が同じ方向を向いて、ベクトルを合わせて仕事に取り組む職場は、失敗や挫折を克服する手段のストックが乏しくなります。色々な方向性を探り、その中で軌道修正したり、別の可能性に挑んでみると柔軟性がある組織のほうが折れない組織かもしれません。